

第6回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和元年10月2日（水）
開 会：13時30分
閉 会：15時45分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第2委員会室
3. 出席委員 石川芳秀 委員（委員長） ・ 清水孝清 委員（副委員長）
若林隆志 委員 ・ 名越圭佑 委員 ・ 水戸美代子 委員
檀上理恵 委員 ・ 箕越美紀子 委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席職員

総務部	総務課長		岡本貢
総務部	総務課	総務法制係長	藤野鉄也
総務部	財政課長		中原博明
総務部	財政課	理財係長	宮本雅幸
生活福祉部	高齢者福祉課長		毛利久子
生活福祉部	高齢者福祉課	介護保険係長	関里美
企画振興部	企画課長		東健治
企画振興部	企画課	企画調整係長	足羽幸宏
企画振興部	いちばんづくり課長		山根啓荘
企画振興部	いちばんづくり課	いちばんづくり係長	福本敬夫
企画振興部	自治定住課長		中村雅文
企画振興部	自治定住課	自治振興係長	麻田英志
総務部	行政管理課長		加藤武徳
総務部	行政管理課	行政管理係長	下森一克
総務部	行政管理課	行政管理係	小林裕美
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第6回庄原市行政評価委員会次第

令和元年10月2日（水）13:30から
庄原市役所 5階第2委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 総括意見の集約

(1) 公用車管理事業 資料1

(2) 庄原市ふるさと応援寄附金 資料2

4. 評価意見の検討

(1) 在宅高齢者介護用品支給事業 資料3

(2) 比婆いざなみ街道マラニック大会実行委員会負担金事業 資料4

5. 評価対象事業の説明

(1) 国際友好都市交流事業（綿陽市との交流事業） 資料5

(2) 自治振興区活動促進補助金 資料6

6. その他

評価シート提出期限	令和元年10月7日（月）
次回評価委員会議	第7回行政評価委員会 ・令和元年10月9日（水）13時30分～ ・5階第2委員会室

7. 閉 会

会 議 経 過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

1ヶ月ぶりの会議となりますが、お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。
本日もよろしくお願いいたします。

3. 総括意見の集約

(1) 公用車管理事業

総括意見	評価：現行どおり
	<p>厳しい財政状況の中で、更新基準の経過年数は15年と長く、かつ年数を経過していても更新を見送っている状況である。</p> <p>しかしながら、時代の要請に応えた車両の高機能化が著しい近年において、時代に即した公用車の更新は必要と考える。</p> <p>特に、ドライブレコーダーの設置促進を図ることは、「あおり運転」対策や交通事故発生時のデータ検証等による職員の安全運転意識・運転マナーの向上を促すことにもつながるため、検討されたい。</p> <p>面積が広く公共交通機関の乏しい本市において、職員が公務を効率的に遂行できるよう、多様な調達方法を検討したうえでの計画的更新、適正な管理、及び職員への安全運転教育に努められたい。</p>

(2) 庄原市ふるさと応援寄附金

総括意見	評価：現行どおり
	<p>返礼品目を増やす、納付しやすい環境の整備、集客力のあるポータルサイトの活用等、改善を進めた結果、寄附者（寄附額）が増加している。</p> <p>現行どおり、常に検証と改善を進め、これまでの庄原市応援者との関係を維持しながら新たな関係人口を増やし、長期的かつ継続的に繋がる仕組みづくりについて、次の点を検討に含め、地道に取り組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・「ふるさと応援団事業」等、他部署と連携し、特色あるPR方法としくみによる全国認知度向上を図る。・物品だけでなく、宿泊・体験型での返礼。

4. 評価意見の検討

(1) 在宅高齢者介護用品支給事業

－ 事務局より追加資料説明 －

委員 【①現行どおり】の意見

この事業は重度の介護者を介護している方や対象高齢者にとっては経済的な負担の軽減等大変有効な事業と思う。また、在宅での介護は要介護3の方が多くおられると聞く。本当に困っている家庭に手を差し伸べるのが行政の仕事だと思っており、財政的に厳しいのは理解できるが、何とか要介護3が支給対象になるよう配慮が必要と思う。

委員 【②現行どおり】の意見

今後も在宅介護を推進する中で、この制度は欠かすことのできない事業であり、財源的に難しくなるが、今後も継続していただきたい事業である。

委員 【③現行どおり】の意見

財源確保が難しくなるからと言って事業を縮小するとか、対象者の幅を小さくするとかの考え方はよくないと思います。今後被介護者が増えていく中で社会的弱者に手厚い日本の社会を形成するには国家全体で法整備を進めなければならないと考える。当面は現行通りとする。

庄原市、広島県だけの問題ではないと考える。地方行政、末端から国へ要望・意見を述べることは、住みやすい社会を作るために必要と考える。

地方の1つの悩みとして、広く様々な手段で国等へ上申していってもらいたい。庄原市としては、当面は現行どおりで頑張りたい。

委員 【④現行どおり】の意見

交付実績では、毎年一定数の実績がある事業である。財政面の課題は残るが、対象者にとっては必要な事業だと思う。現行通り実施すべきと考える。

委員 【⑤現行どおり】の意見

国からの補助の縮小、削減が想定される中、また団塊の世代の後期高齢者の仲間入りを控え、要介護者の増加も予測され、本事業の継続には、相当な自主財源が必要となり先行きの困難さが考えられます。

だからこそ、庄原市として、在宅で介護をされている方を応援する意味で、なんとか要介護3の現状を頑張ってみてはどうでしょうか。

要介護者の介護の基本は「在宅で」を推進するうえからも、現状の維持を希望します。

委員 【⑥現行どおり】の意見

一般財源化してでも、継続すべき事業と考えます。今後、高齢化と在宅介護は避けて通れません。介護する家族の負担を軽減しなければ、家庭が崩壊するケースも出てくるでしょう。本事業を継続することが、ドミノ倒しの他分野で起こ

る可能性のある事象を、多少なりとも食い止めることができるのではないでしょうか。

委員 【⑦拡充】の意見

要介護3の認定を受けると必要経費も増え、生活費へかなり影響するため、支給対象は引き続き要介護3からを望む。対して支給額は満額の75,000円/年でなく、現在の使用率にあった70%あたりの金額でよいと思う。

－総括意見－

委員長 「現行どおり」とする。

(2) 比婆いざなみ街道マラニック大会実行委員会負担金事業

－ 事務局より追加資料説明 －

委員 【①拡充】の意見

この大会は庄原市の食や景観などの魅力を発信することを目的に始められたもので、地域活性化を図るためには有効な事業と思う。しかし、比婆いざなみ街道やマラニック大会が広く市民に浸透していないことも事実であり、今後住民への浸透を図り地域の魅力発信のため事業拡充が適当と思う。

昨年・今年比和が発着点。地元ということで思い入れのある発言になるが、比和や高野へ来ていただく機会はなかなか無い。観光地としての比婆いざなみ街道を知ってもらうという意味から、大会そのものが地域へ及ぼす影響はかなりあると思うので、大変有効と考える。

まだ3回目であり、もう少し長い目で発展的に見て欲しい。いざなみ街道沿いだけでなく、例えばエイドステーションで他の地域からの食の提供等、なんらかの形で参加してもらえるような工夫をして欲しい。

委員 【②現行どおり】の意見

市域の一部の事業となっていることもあり、開催する地元の負担も多く、拡充することは難しいと思われる。そうした中で、これまで2回の開催と開催回数も浅く現行どおりとすることが望ましい。

委員

【③拡充】の意見

本大会は「比婆いざなみ街道」を全国に広め知名度を高めるための手段と捉える。マラニック大会への幅広い参加者を通じて庄原の魅力を発信し、観光効果と定住効果を高める一助となるよう願う。多くの参加者を募るためには、内容の検討と改善策が必要である。また、本来の目的を達成する為には継続が必要で、もっと市民が関わりを持たないと効果は見えてこないと思う。最小限の経費でもって成功に導く努力がうかがえる。

産業振興という面から、配布冊子へ、庄原市内事業所の自社宣伝や従業員募集等をしていただき、広告宣伝費をいただくことも良いのでは。

参加者の方に、庄原市にある企業を知っていただくだけでなく、他方面への相乗効果も期待できるのではないかと。

委員

【④現行どおり】の意見

関連企業からのスポンサー提携を積極的に行った方が、事業が拡大すると考える。よって現行どおりの財政支出を行いながら、スポンサー提携による事業の拡大が望ましいと考える。

今後も続けられるのであれば、ぜひ検討していただきたい。

委員

【⑤拡充】の意見

比婆いざなみ街道を庄原市の宝として、帝釈峡に並ぶもうひとつの観光資源として、マラニックという手段を使い、多くの方の認知度の向上を図るのは、素晴らしいアイデアだと考えます。

それを踏まえれば、あくまでも「比婆」にこだわり、「熊野神社」にこだわり、コースは毎回「同じ」にこだわる方が良いのではないのでしょうか。このことによって、リピーター参加者のコースへの愛着、地域産品の愛着、等々生まれるのではないのでしょうか。

コースとなった地域の参画はもちろんのこと、庄原市内全域からのボランティアや出店がしやすい環境を整えたり、所管課が課題ととらえている内容は市民の力（知恵・技術）を借りて解決しようとするれば、その時点で関心も高まるのではないかと思います。

コースが安定することにより安全性が高まる。

市内全体に声をかけていただきたい。知られていないのが一番問題と思う。

声をかける範囲が限られているのでは。

委員

【⑥その他の見直し】の意見

参加者からは好評を得ており、地域のイメージアップに役立っている点は高く評価するが、地域のボランティアスタッフや、市職員の負担が大きすぎるのでは

ないか。今年が3年目ということで、せっかく2年間種をまいたところであり、すぐに終了すべきとは思わないが、自治振興区やエイドスポットのスタッフの意見をよくフィードバックして、よりよい運営を模索していただければと願う。

現場がやらされている感では広がらない。いかに市民の方に「一緒に盛り上がっていこう」という気分を醸成できるかが大事と考える。

委員 【⑦現行どおり】の意見

対象者は限られるが、庄原市のPRという面ではよい事業であり、費用も参加費と市からの負担金で賄え、スポンサーを募る必要がない点からも続けやすい事業である。プラモニにも意見があったが、現時点では市の一部地域だけの行事であり、市全体の事業として感じられない。「比婆いざなみ街道」と銘打つ以上、大幅なコース変更は難しいだろうが、コースに入っていない地域へも何らかのメリットがあればいいと思う。出店やエイドへ協力する団体として、コース外の地域にある事業所や団体の参加を募ってもいいのではないか。

まだ3回。この予算額であれば、どうにか確保していただき、長く続けていただきたいとの思いで「現行どおり」とした。

委員 今年の状況について。

事務局 9月30日を申込み期限としていたが、60kmの部が127名、13.73kmの部が177名で定員の4分の3を少し超えた程度のため、10月10日まで期限を延長したところである。

市内事業所、県内スポーツ施設等へ再度お願いしている。

地元の皆さんにも多大なるご協力をいただき、エイドステーションでは、比和・高野の自治振興区の皆様を中心に準備を進めている。

委員 昨年からの改善点について。

事務局 会場について、昨年テントが風に煽られたため、今年は業者に委託し、安全面へ配慮し設置したい。

早朝スタートということで、会場の位置が分かりにくかったというご意見があったため、分かりやすい標識への改善を予定している。

比和総合運動公園のステージ前にテントを設置し、イベントを実施する周辺でくつろいでいただけるような配置を考えている。

昨年に引き続いてではあるが、第1回目の際にコースを間違えられた方がおられたこともあり、2回目以降、エイドステーションや交差点等にはスタッフを配置し、コース誤りが無いようにしている。

このイベントは景観と食の魅力を推しているが、この食について、地元の方の負担軽減のため、昨年は金額提示をせずエイドステーションをお願いしていたところ、今年は参加人数1人あたり100円、1エイドあたり2万円程度を設定し、更に

準備や目に見えない経費について、1 エイドあたり約1万円を協力謝礼として支払うこととしている。

コース設定については、先ほども色々ご意見をいただいたが、比婆いざなみ街道の魅力が伝わるような設定に取り組んでいる。

委員 実行委員会の開催回数は。

事務局 実行委員会は3回。ほかに専門部会が3つあり、総務部・コース運営部・エイド運営部の3部門についても各1回は開催している。

エイド運営部が、地元の協力を一番得ている部門であり、重要な役割を持つ。

委員 各回で意見が出て、改善につながっていると考えてよいか。

事務局 例えば、先ほどの協力謝礼について、昨年までは食材費だけであったが、それでは自治振興区や自治会に負担が発生するというご意見があり、今年度は改善している。

委員 スポーツメーカー等スポンサーの願いは、やはり難しいのか。

事務局 マラニックの運営を委託している業者において、2回スポンサーの募集をしたが、応募がなかった。

また、事業開始当初、市の負担金で実施を組み立てたということもあり、スポンサーの方をお願いして実施するという組み立てができていないことは否めない。実行委員会の中でも検討の余地があるのではないかという話が出ている。他の様々な大会の状況から、市内事業所等へ呼びかけた方が広がりが出るのではないかといったことや、スポーツメーカーへの呼びかけ等、検討をしているところである。

—総括意見—

委員長 「拡充」とする。

5. 評価対象事業の説明

(1) 国際友好都市交流事業（綿陽市との交流事業）

— 事務局より資料説明 —

委員 四川省が多い。各市町の提携は今回提示資料が全てか。

事務局 四川省が多い理由は、広島県が四川省と友好協定を締結していることから、県から、庄原市を含め、紹介があったため。

資料は、県内の「市」における協定締結状況を示している。

大きな市では複数の都市と友好協定を締結しているが、庄原市と同程度の自治体での複数締結は、対応が難しいとの判断が見て取れる。

委員 参加者の自己負担額は、帰国後の報告義務等はあるのか。

事務局 訪問団について、例えば平成 29 年度は市長以下 5 名とある。同規模の訪問の際、市民の方は 2～3 名。そのほか、市長・随行員（市職員）、通訳を兼ねた旅行会社職員となる。基本的に負担額は発生しない。

お土産等については個人負担であるが、中国国内での経費は中国側、日本国内での交通費は庄原市が負担している。

帰国後について、レポートは無いが、感想・状況等、聞き取りをしている。

「市民の方」は、公募ではなく各団体からの推薦や市からのお願いにより参加いただいている。

委員 当初は同程度だったかもしれないが、近年は、経済力の違いがかなり大きくなっていると思われる。実施目的にある、経済・農業・工業等に関する科学技術、教育・文化等々の相互の協力関係は現在あるのか。友好が主になっているのか。

事務局 全てにわたって交流をしている実態はないが、教育において、青少年交流は行っている。科学技術について、庄原市へ持ち帰って何か実践しているわけではないので、どう庄原市に還元しているのかということをお示しすることは難しいが、今年度、中華人民共和国、いわゆる国主催の綿陽市で開催された科学技術博覧会に参加し、中国の科学技術というものに、訪問団は触れて帰った。

委員 今後の目標は。

事務局 綿陽市側から青少年交流の継続・活発化についてご意見をいただいている。

また、行政同士の交流になっている点もあるため、芸術・文化・スポーツといった交流ができないかということをお示しを庄原市側から投げかけをし、同意の回答をいただいている。

委員 広く市民の方へ報告する手法として、節目節目で冊子作成等したことはあるか。

事務局 作成していない。市民の方には知っていただく手段は、市のホームページ掲載の綿陽市の概要、訪問の様子、及び記念事業の紹介のみ。

委員 合併前からの事業であり、旧庄原市以外の方にも知っていただくことも成果と考え、記念誌的なものを使い、広く周知報告することが必要ではないか。

委員 今までは官と官の交流。実際、民と民での交流は可能なのか。

事務局 中国に民間交流団体はあるが、その団体へは必ず政府の方が入っておられる。また、その団体へ連絡等をする際には、必ず綿陽市行政の窓口を通して行うこととなっている。

委員 純然たる民間交流は無理という理解でよいか。

事務局 そのとおり。

委員 令和 2 年度、30 周年事業は何を実施する計画か。

事務局 記念式典を計画している。10 周年を庄原で、20 周年を綿陽市で実施しているので、30 周年は庄原市で実施し、綿陽市から訪問いただくよう計画している。

あわせて、記念事業ということで、綿陽市・庄原市双方で記念事業を行うこととしている。事業には、互いに訪問する。綿陽市から来ていただく際、記念式典・記念事業を一緒に行うことになると思う。

来年度の計画について、今年9月に友好訪問団が綿陽市を訪れた際、議定書（確認書）を締結したところである。

委員 記念式典等での往来があるが、例えば、青少年交流活性化ということであれば、ネット環境があるので行き来しなくても、学生同士で討論等も出来ると思うが、検討はないか。

事務局 これまで、委員発言のとおり、行き来することで交流を図ってきた。SNS等によるやりとりもできる時代になり、その土地の情報を得る手法の一つとしてネットは有用であるが、その土地その土地の風土・文化を知る、肌で感じるということになると、やはり現地へ行き、現地の生活を体験することが貴重な体験になると考えるため、相互訪問は繰り返し行っていきたい。そのうえで、行って終わりではなく、SNS等を利用したその後の交流についても考えていきたい。

委員 本来の文化交流は、どういう生活をし、どう考えるかといった価値観等を知ることだと思う。「行って帰る」だけでは分からない。継続的な意見交流が必要と考える。肌で感じる文化交流ももちろん大事だと思うが、今のやり方では、形骸的でもったいない。

事務局 青少年交流により人間関係をつくってもらい、その後は個人的なつながりの中で関係を続けることはできると思う。行政の役割は、きっかけを作ることが主と考える。

資料を見ていただくとわかるが、青少年の参加人数が少ない。しっかり送り込むということをやっけていかなくてはいけないと思っている。

30周年の記念事業については、相互協議となるため、決定事項ではないが、市民の方にしっかり参加していただけるようなイベントにし、まずは、綿陽市を知ってもらう機会にしたいと考えている。

また、例えば職員が学校等に出向いてこれまでの経過等について出前トークをしながら、イベント参加を促すような活動もしていきたい。

委員 SNSとはいっても、フェイスブックやツイッターは中国からはアクセスできない。

事務局 WeChatは可能。

(2) 自治振興区活動促進補助金

－ 事務局より資料説明 －

委員 過去の補助事業で、ずっと続いている事業、良い事例はあるか。

事務局 特にソフト事業は続いている振興区もあるが、そうでない振興区もある。

歴史冊子は作って終わりの振興区と学校等で少しずつ活用されている振興区もある。

山内自治振興区は、米の関係で、ハード事業で機械を導入し、昨年法人化した。

本格的に減農薬で「里山の夢」という米を作られて、農家所得向上につながっている。

小奴可自治振興区では過去に味噌加工機を導入した。更に量を増やしたいということで、昨年採択して導入し、長年続いている。

ハード事業で特産品加工等するために機械を導入した事業は継続している。

ソフト事業は細々とではあるが、学習事業・歴史継承事業において続いているが、はっきりこれというものが無いのはソフト事業だと思う。

委員 財源について、平成 26 年度「起債」から平成 27 年度「その他」の理由は。

事務局 内部整理の違いであり、財源は同じ起債（過疎債）。ソフト事業については、過疎債（起債）を一旦過疎地域自立促進基金（貯金）に積み立て、積立金から事業に充てている。単独の市費ではない。

例) 医療従事者育成奨学金のように、返還金の生じる事があるソフト事業もあるため基金扱いとなっている。

委員 過疎債の上限額はあるのか。

事務局 国の予算枠があるため、市にも上限はある。

委員 複数年に渡るソフト事業の申請は可能なのか。

事務局 事例はないが、毎年、審査会で決定される。

委員 今年度状況は。

事務局 5 件申請のうち 1 件不採択。

委員 元気のある振興区と格差のある自治振興区もあるかと思う。格差に対しての指導・対応策は検討しているか。

事務局 毎年、全自治振興区を周り、組織・課題等についてヒアリングをしている。

格差がでてきているのは事実であり、研修会や視察等を組んで、良い事例を学んでいただくという取り組みは行っているが、うまくいっていない振興区ではその取り組みも有効に働いてはいない。

人口が減り、高齢化もしている。振興区自体もどうにかしないといけないと考えているが、人材・財源が無いため、再編を視野に入れた取り組みも必要ではないかと考えている。

委員 不採択の基準はどのようなものか。

事務局 主なものは「物を買う」際の活用策が弱い。審査会において、予算で買うように判断する。

委員 「定住促進」が少ない。庄原市は推しているのに。

事務局 現在の振興区の状況として、振興区ができた当初より業務量が増えているという意見が圧倒的。高齢者見守り・サロン・地域包括ケアのウエイトが大きく、定住促進については手間がかかるため、なかなか取り組みができない。

口和や田森はよく頑張っているので、このトップランナーを見本にして取り組んでもらうように、特に「定住促進」には予算を組み、削減しないよう配慮している。しかしながら、高齢者対策等、現実問題への対応のほうが優先される。

6. その他

事務局 (次回会議までの資料提出及び、会議内容の説明)

7. 閉 会